

# 中央労福協ニュース NEWS LETTER

労働者福祉中央協議会（中央労福協）  
発行人 南部 美智代  
No.202  
〒101-0052  
東京都千代田区神田小川町 3-8 中北ビル 5F  
Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>



## 若者とつながるために まずは自分の扉をフルオープンに！

### 愛媛県から YouTubeLive 生配信！

### 変わり続けること。そして、 新しいつながりに向けて第一歩を！

まだご覧いただけます！  
右 QR コードからぜひ！



#### コメンテーター



中央労福協  
南部美智代さん



愛媛大学  
社会共創学部  
松村暢彦さん

#### ファシリテーター



フリーパーソナリティ  
ディレクター  
やのひろみさん

#### ゲスト



NPO 法人  
み・らいず2  
野田満由美さん



広島県労福協  
久光博智さん

#### No.202 Topics

- 2面 2023 全国研究集会：当日の様子のレポート
- 3面 2023 全国研究集会：グラフィックレコーディング結果掲載！
- 4面 2023 年度 地方労福協事務担当者研修会を開催
- 5面 ウクライナ支援・子どもの食支援へ寄付
- 6面 2023 年度政策制度要請
- 7面 定期総会報告（日本生協連・全福センター）
- 8面 助け合い・支え合いの現場から第6弾第5回



松山大学法学部  
甲斐朋香さん



NPO 法人  
ワークライフコロガ  
堀田真奈さん



NPO 法人  
エコネット近畿  
岡見厚志さん

労働者福祉中央協議会は6月9日、「2023 全国研究集会 in 愛媛」を松山市民会館（愛媛県松山市）で Hybrid 開催した。会場参加 224 名、YouTubeLive 生配信視聴回数 303 回を記録した。

トークセッションでは労福協が抱える悩みとして、60代男性中心のタテ社会、言いたいことが言えない、長年の積み重ねがあり新しいことをするのが難しいなどの課題が示され、従来の延長線で本当に良いのか、と問いかげがあった。

また、「幹部の決定に NO と言えない現状・悩みを抱えている組織が多い。」「若いからできるよな？」と言われた。年齢に関わらず人それぞれ得意不得意はある、役割分担を。」といった若い世代の声、「幹部が発言すると若い人には決定事項のように受け止められてしまい、意見が出てこない。」といった上の世代の悩みなども出された。

普段から学生との関係を構築している NPO の実践者からは「来るのを待つのではなく若者の現場に来てほしい」「安い労働力にせず若い人たちが対価を得られる仕組みを」など、昨年静岡の集会和通ずる意見もあった。



## 自己開示、束縛しない、押し付けない。

若者世代とどうつながっていくか、ゲストからは「失敗やアホなところも見せていく自己開示が大事」「ガチガチに束縛しない、必要に応じて必要なときにつながるゆるやかさを」「手法を押し付けない。意義や目的を次世代へ引き継ぐ」などといった考え、意見が出された。また、学生をルーティンワークに使わず、対価をもらいながら地域や社会のためのキャリアへとつなげていくソーシャルバイト、ソーシャルリクルートなどのマッチングアイデアが示され、「うちでもやってみたい」と盛り上がる一幕もあった。

ファシリテーターのやのひろみ氏は「みんな違って当

たり前。若い世代とつながるために、まずは自分の扉をフルオープンにしていこう」と締めくくった。

トークセッションの前後には今年も動画を用いた演出を行い、エンディングテーマには NHK 連続テレビ小説『舞いあがれ！』の主題歌にもなり、若者世代に絶大な人気を誇るロックバンド backnumber の『アイラブユー』を使用した。

## 愛媛県からの歓迎セッション！！



総司会  
フリーアナウンサー  
三好千博さん



愛媛県知事  
中村時広さん



愛媛県労福協  
弓立浩二さん

集会冒頭には開催県から歓迎のセッションがあり、中村時広・愛媛県知事から愛媛県の魅力について動画を交えた PR があった。また弓立浩二・愛媛県労福協理事長はトークセッションに向け「今の若い世代は人生観・価値観が大きく違う」として「若い人たちの声を自然体、ニュートラルで受け止める必要がある」と述べた。

## オンラインでご視聴下さい！

7月9日までは「見逃し配信版」を、7月10日以降は「永続 Archive 版」を、特設ウェブサイトからご視聴頂けます。まだご覧になっていない方、もう一度見たい方、組織内研修等で集まって視聴するなど、積極的なご活用をお願い致します。



スマホで読み取り

## 会場参加・Web 参加の方へ かんたん Web アンケートご協力をお願い

次年度以降の企画・運営の参考とさせていただきますのでかんたん Web アンケートへのご協力をお願い致します。当日会場参加された方で、まだご回答頂けていない方も今からでもご協力をお願い致します。



スマホで読み取り

# 初の試み、グラフィックレコーディング！

今回の集会では、初の試みとしてイラストやテキストを用いて議論の経過をリアルタイムで可視化する「デジタルグラフィックレコーディング（通称“グラレコ”）」を導入した。

#2023全国研究会in愛媛 #中央労福協 #労働者福祉中央協議会

新しい学びに向けたスタートライン

現在の活動の

問題意識や課題は?

久光氏 男性はばかり60年代の... 労福協では... 新しいコトに挑戦せらばいい... 女学生の声も反映せらばいい...

塚田氏 話しも伝わりない、仕方がない... ママたち、あきらめ、この主語、くくりもどうなの?

岡見氏 上の人の決定を合弁などで、NOと言えない... 香風... 自らのズレ、価値観のズレが原因? ... まずは...お互いの壁を取らばいい... ひざさつきあめめせる

甲斐氏 若者や子どもに、よりがかりすぎ(頼りすぎ) ちよくない気も

野田氏 若者の不満、若者の不満、価値観の呪縛、私たちがどう解釈している、違ふこと、学びに

どうしたらいい? 次世代とどう関わりたい? 次△...

2023/06/09 (金) 14:30~17:00 @愛媛県松山市市民会館 #若者の目線に立つ #世代間を越えたつながり #世代間の連携と協働 @iwashi\_sayoka クラウドいっしょ



今回グラレコを担当して下さった“いわしー”こと 岩下紗矢香さん

#2023全国研究会in愛媛 #中央労福協 #労働者福祉中央協議会

新しい学びに向けたスタートライン

頼る、どうする?

人々を頼る、信頼するには? 次世代との関わり方をどうすれば?

事例紹介!

岡見氏 天神祭ごみゼロ大作戦 やりた! 学生99 1,000人参加のイベント 入りの大きさが大切 企業(参加数多い)

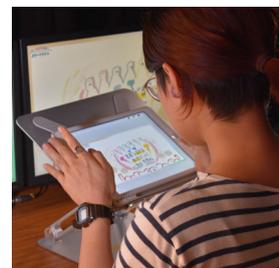
野田氏 みらいが2 ガッシュク ● 共に実感する ● 話し合いのプロセスと一緒に

塚田氏 自分で工夫に関わる ● イスロ フォローアップ! 自分たちからアプローチ!

若者が求めている 若者は便利なものを求めている! 大人の後姿を見せるのが大切!

若者に求めるもの 親世代はピンポイントでサポートを! 若い世代にお願いする!

2023/06/09 (金) 14:30~17:00 @愛媛県松山市市民会館 #若者の目線に立つ #世代間を越えたつながり #世代間の連携と協働 @iwashi\_sayoka クラウドいっしょ



舞台上でiPadを用いて描いてくださっています!

いわしーさんの情報は こちらのQRコードから!



#2023全国研究会in愛媛 #中央労福協 #労働者福祉中央協議会

今後活動していきたいとは?

自分から役に立っている活動と見える活動とを! 若者と一緒

学生だから ● 企業と競争して... プレゼンテーションではなく、新しい企画から学生も取り組める形を! ● #ユニバーサリティ #ユニバーサリティ

無理して若者に引越ぐではなく... そもそも・根源を整理することが大切!

「シルバーバレットの話 “これぞおれとけは” というのを 手塚さん!」

● 目の前のコトを丁寧に ● 人とつながる ● 若者に頼る

活動することが、対価になると、いい仕組み作りを!

福祉はひとつ! ● コーディネーター役 だけではなく ● ファシリテーター役も担う

人が人として向きあうこと 一歩ふみだすこと 大切なこと

2023/06/09 (金) 14:30~17:00 @愛媛県松山市市民会館 #若者の目線に立つ #世代間を越えたつながり #世代間の連携と協働 @iwashi\_sayoka クラウドいっしょ



直前のオールキャスト打ち合わせやリハーサルにも立ち会って頂きました!

## 住みたい田舎ランキング 若者世代部門1位のまちへ 地域視察研修「水の都 SAIJO そこは若者が集う街」開催



西条市長  
玉井敏久さん



全国研究集会の翌日、加盟団体から希望者を募って地域視察研修を開催、観光バス2台で愛媛県東部の西条市を訪れた。48名が参加した。西条市は「住みたい田舎ベストランキング」において、2022年に若者世代・単身者部門で全国第1位を獲得し、同部門においては3年連続1位を獲得しており、今若い世代が注目する街のひとつだ。

冒頭、玉井敏久・西条市長より歓迎の挨拶を頂き、続いて西条市役所（市民生活部移住推進課）より、若い世代が移住したいと思えるまちづくり施策について、そのポイントや工夫などについて解説を頂いた。若い世代への魅力の伝え方、いかに移住してもらうか、今回の全国研究集会のテーマにも関連する地域視察研修となった。

また西条市は四国最高峰の石鎚連峰と瀬戸内海に挟ま

れた地形にあり、伏流水からの湧水が名水百選にも選ばれ、地元の人々の生活にも欠かせない資源となっている。参加者らは「水案内人」からの解説を聞きながら、実際に散策コースを歩きつつ湧水を試飲して楽しんだ。



水案内人からうちぬき水について解説頂いた（左）。実際の水汲み場と湧水の様子。参加者らは試飲して楽しんだ（右）。

## 2023年度 地方労福協事務担当者研修会を開催 全国研究集会 in 愛媛と連動

中央労福協は6月9日、愛媛県の東京第一ホテル松山で「2023年度地方労福協事務担当者研修会」を3年ぶりに対面で開催、全国から28名が参加した。

開会にあたり、南部事務局長から「事務担当者のみなさんにも、労働者自主福祉運動の課題や今後について深く考える機会とするため、研究集会と連動した開催とした。取り組みのアイデアがあれば積極的に発言してほしい」と事務担当者への期待を語り、労福協の歩みや、コロナ禍での活動について報告した。

続いて労金協会組織渉外部の塩原上席調査役より、「労働者自主福祉運動とろうきん」と題し、動画を交えて取り組みが紹介された。こくみん共済coop組織推進部の澤田次長からは、こくみん共済誕生40周年を機にスタートした「こくみんLifeサポート」について、スマートフォンのアプリを交えて紹介された。



最後は、ランチミーティングで情報交換を行った後、松山市民会場に移動して「2023全国研究集会 in 愛媛」に参加した。

## ウクライナ支援、子どもの食支援へ 第94回メーデー中央大会 売上金・残在庫を寄付！



在日ウクライナ大使館のインナ・イリナ書記官（左）に目録を贈呈する中央労福協の南部美智代事務局長（右）

中央労福協は5月30日、第94回メーデー中央大会でブース出店し販売した福島県産ブランド米の売上金のうち、15万1千円を駐日ウクライナ特命全権大使宛に寄付することとし、中央労福協・南部事務局長から在日ウクライナ大使館のインナ・イリナ書記官へお渡しした。

書記官からは「1円でもご支援をいただくのは本当にありがたいこと。本国の外務省とも相談のうえ、人道支援やNGO団体の支援に使わせて頂きたい」と御礼のお言葉を頂いた。その後の意見交換では、「ウクライナは戦



NPO法人キッズドアの渡辺由美子理事長（右）に目録を贈呈する中央労福協の南部美智代事務局長（左）。台車に積まれているものが実際のお米108kg

争の報道ばかりされてしまっているが、文化的な面でも興味をお持ち頂き、知って頂けると嬉しく思う」とウクライナ国立民族舞踊団の公演や第2次世界大戦下のウクライナ・ポーランドを舞台にした映画をご紹介頂いた。

さらに同日、メーデーで販売したお米の余剰在庫108kgを、子どもたちの学習支援や居場所支援を行うNPO法人キッズドアに寄贈した。今後、キッズドアに通う子どもたちに提供される軽食などに使用される予定。

## 労働運動と労働者自主福祉運動のさらなる連携へ 第3回労働組合会議の開催

中央労福協は6月5日、第3回労働組合会議をHybrid開催し、加盟労働団体から36名が参加した。本会議では、学習会の実施と三つの議題について意見交換を行った。

意見交換前段の学習会では、中央労福協講師団講師の高橋均氏をお招きし、「日本の労働運動と労働者自主福祉運動の歴史を振り返る～労働組合、生協、中央労福協、労働金庫、全労済の関係を読み解く～」と題し、中央労福協の歴史・経過、労働組合や協同組合との関わり、現代に求められる役割・期待などについて講演をいただいた。高橋氏は労働組合と協同組合がめざす連帯社会について、『困った時はお互いさま』『情けはひとのためならず』などを具現化しているのが労働組合、労福協、労金、こくみん共済coopであり、未来は労福協運動の実践にかかっている」と語った。

意見交換では、「新たな運動の展開と組織運営について」で、中央労福協の現行の組織運営上の主な課題を共有し



た。続いて、中央労福協が設置した「高等教育負担軽減へ向けての研究会」の「政策提言」を受けて、今後めざすべき政策目標とそれを実現するための中長期戦略として提言を位置づけ、取り組みの視点と方向性を確認した。また、「2023年度全国福祉強化キャンペーンの取り組み（骨子）」では、秋の展開にむけた方向性を確認した。

## コロナ、物価高騰、円安。今こそ公的支援の機能強化を。 2023年度 政策・制度要請スタート

中央労福協と加盟事業団体は、各政党及び中央省庁への今年度の要請事項を取りまとめ（5月8日開催第8回幹事会で確認）、5月19日の立憲民主党を皮切りに要請行動を開始した。

5月8日に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に引き下げられたが、コロナ禍による影響を受けている方々をもれることなく社会全体で支えていくことはもとより、こうしたセーフティネットの脆弱さは以前から日本社会が抱えていた課題であり、必要な措置はポス

トコロナ社会においても続く恒常的な制度へと転換していく必要がある。さらに今般の気候危機、自然災害、国際紛争の長期化などにより世界は経済危機・社会不安が深刻化している。こうしたあおりを受け、我が国においてもコロナ禍、物価高騰、円安の三重苦が人々の暮らしに深刻な打撃を与えていることから、労福協及び加盟事業団体は、すべての困窮者・生活者のための根本的な公的セーフティネットの機能強化を求めて各政党・中央省庁へ必要な要請行動を展開していく。

### 立憲民主党（5月19日）



立憲民主党からは、西村智奈美代表代行、大島敦企業・団体交流委員長、熊谷裕人議員、城井崇議員、近藤昭一議員、松木謙公議員、村田享子議員、高木真理議員、福田昭夫議員が出席。西村代表代行は「中央労福協から一つひとつ意義深い要望をいただいたこと、感謝申し上げます」、大島委員長は「いただいた要望の方向性は我が党の方向と変わらない。要望の実現に向けて、しっかりと連携して取り組んでいきたい」と述べられた。

### 公明党（5月30日）



公明党からは、佐藤英道労働局長、輿水恵一労働局次長、福重隆浩労働局次長、安江伸夫労働局次長が出席。佐藤労働局長は「5月29日に、公明党として骨太方針に向けて岸田総理に提言を申し入れており、児童手当を高校卒まで支給、伴走型・経済支援の恒久化、高校生までの医療費無償化、給付型など奨学金制度拡充、育休給付金を手取り10割にと、皆さまの要請とかなり重複しているものと考える」と述べられた。

### 国民民主党（6月1日）



国民民主党からは玉木雄一郎代表、古川元久企業団体委員長、浅野哲議員、磯崎哲史議員、伊藤孝恵議員、斎藤アレックス議員、竹詰仁議員、西岡秀子議員、嘉田由紀子議員が出席し、上田清司議員が同席した。玉木代表は「コロナは5類となったが、社会的に弱い方に影響が続き、また、見えにくい。誰一人取り残さない社会の構築に向けて、今が正念場である。連携しながら政策を推進したい」と述べられた。

### 社会民主党（6月7日）



社会民主党からは福島みずほ党首、新垣邦男副党首が出席。福島党首は「給付型奨学金の拡充や高等教育の授業料を現在の半額とすることなど頑張っていきたい。また、介護の切り捨てや医療の人材不足などを含め、国会や委員会で取り組んで参りたい。労協法は議員立法により成立したが、地域における設立が進み、若者の就労の場所になっている。本当に広がると良いと考える」と述べられた。

## 日本生協連より 第73回通常総会を開催

日本生協連は2023年6月16日、第73回通常総会を開催し、2022年度事業報告・決算、2023年度事業計画・予算などの9議案全てが賛成多数で可決されました。

開会にあたり、日本生協連代表理事会長土屋敏夫は、コロナ禍の3年半で社会のさまざまな問題が顕在化し、貧困や格差が拡大している中、全国の生協が地域と連携・協力しながら支援に取り組んできたことに触れ、今後も「誰一人取り残さない」という強い意思を持ち、支援を継続していくことを呼びかけました。

また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻について、ユニセフの「ウクライナ緊急募金」に、全国の組合員や生協から約10億円が寄せられたこと、そのような中、5月に開催されたG7サミットで発表された「広島ビジョン」が、核兵器廃絶・削減に向けた被爆地広島からの具体的なメッセージとしては期待に添うものとはならなかったことに触れ、世界の平和を願い活動を続けてきた生協として、核兵器廃絶・削減に向けた取り組みを着実に進めていきたいと述べました。

議案提案後の全体討論では、行政・地域と連携した買



い物支援事業に取り組む生協からは、店舗や移動販売車が撤退した買い物困難地域のために市と地元バス事業者、生協が協力して「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるまちづくり」を目指して課題解決に取り組んだ事例が報告されました。その他、ベテラン人材の活用と多様な働き方に対応した労働環境づくりや、事業の強化とDXの推進、地域での居場所づくり、重大なサイバーインシデントなどについて報告があり、幅広いテーマで議論が行われました。

## 全福センターより 令和5年度定時総会を開催

6月13日(火)、全福センターは東京都内で、会員サービスセンター(SC)202団体および、賛助会員参加のもと、「令和5年度定時総会」を開催しました。

議案審議に先立ち、厚生労働省雇用環境・均等局 労働者協同組合業務室の水野室長より、「人材確保が深刻な問題となっている中小企業においては、今後も福利厚生的重要性が高まっていくと考えられます。皆様方におかれましては、SC事業の推進のため、引き続き全福センターを中心として、各SCと連携・協力を図り、経験・情報を共有することを通して、中小企業に働く人々のためのSC事業の推進に着実に取り組まれますことを心から期待しております」との来賓挨拶をいただきました。

議事では「令和4年度決算及び監査報告」および「第16期役員選任(案)」の議案が審議され、いずれも異議なく承認されました。

議事の中で出席者より、「SC事業の法制化について、中央要請行動を行う体制作りとして、どのような事を考え



ているか」との質問があり、議長(全福センター野寺会長)は、「各地域の労福協にも協力をいただいて、できるだけ多くのSCがそれぞれのレベルで行政に対して要請を行い、その要請がまとまって、最終的に国への要請となる形にしたいと考えている」と回答しました。

全福センターとしては今後も中央労福協ならびに連携が可能な地方労福協と共に、SC事業の法制化に向けた要請行動を行って参ります。

連載

助け合い・支え合いの現場から 第6弾



公益社団法人  
徳島県労働者福祉協議会  
元会長 久積 育郎 さん

第5回

## 労福協をコーディネーターに —「協同が輝く」社会へ—



2010年7月「就職のための日本語講座」修了後の交流会

### ●「誰もがたすけあう大きな家」をめざして

障がい者のための自動車運転免許特別講座の記事が地元新聞の朝刊に掲載されたその朝に、県南の教育委員会から「町民から、障がい者に免許を取らせて事故が起こったらどうするのかとの声がある。主催者としてどう考えているのか」との電話がありました。「自動車免許はダブルスタンダードですか？」と問い返すとはたと気がついたようでした。ノーマライゼーションが言われて久しい中での出来事です。私は未だ遠いと感じました。

この運転免許特別講座は、2002年に開催された障がい者就業生活支援フォーラムで「息子が免許を取ろうと頑張っているが、実技は合格しても学科が難しく困っている。何か良い手立てはないか」との発言がきっかけでした。パネラーとして出席していた私から「関係者・団体が知恵を出して連携すれば可能だと思う。具体的な相談をしましょう」と答え、その後に労福協がコーディネーターを務め、①講師は教習所の労組OBの指導員②サポーターはボランティア③会場は市町村④教科書は教習所がそれぞれ受け持ち、運営委員会が発足することとなりました。南部、北部をスタートとして県内4か所でそれぞれ50回の講座開催となりました。

現在までに507名が受講し、普通免許166名、バイク28名が合格し、職域の拡大につながっています。合格者の一人は「徳島人生たすけあい家」の市民団体を立ち上げ、多くの人たちの協力を得て、資源ゴミを回収し、その収益をハートフルゆめ基金などに寄付して「誰もが人生をたすけあう、大きな家」をめざして活動しています。

### ●「日本一、外国人が活躍する徳島」をめざして

また、県内在住の外国人が6000人を超え、定住外国人の就職は大変厳しい状況にありました。その当時、県内では就労のための日本語講座は開かれていませんでした。

県内で活動する「JTM とくしま日本語ネットワーク」の事務局を労福協に置いていたこともあり、2009年に日本語教師ボランティアのJTMとのコラボにより「外国人の就労のための日本語講座」を開講することといたしました。

現在では介護・運転免許・日本語検定、ビジネスマナー講座など在住外国人のための総合的な就労・生活支援に取り組んでいます。現在までに20ヵ国、305名が受講し、85名が就職に結びついています。

この取り組みの最大の特徴は、開始直後から「在住外国人の就労・定着促進連絡協議会」を設置していたことです。県・労働局をはじめ、教育委員会、国際交流協会、JTM、観光協会、老人保健施設、労・使団体などが参加し、「日本一、外国人が活躍する徳島」へ向け連携をはかっていることです。今後、さらに大きな役割を果たすことになると思います。

### ●労福協がコーディネーターとして「協同が輝く」社会へ

日本社会は、超少子高齢化による急速な人口減少社会に転じ、大きな社会課題となっています。入管法の改正、外国人技能実習制度の廃止、新たな特定技能制度など大きな変化の時代を迎えています。

改めて、人間の尊厳を第一とした多様性のある共生社会へ向け、労福協はコーディネーターとして、さまざまな分野の人たちとの協働で「協同が輝く」未来へ向けさらなる奮闘が求められていると思います。